

行政報告

大雪への対応と雪害の状況

この冬も昨年同様の大雪と低温に見舞われ、2月24日現在の総降雪量は547センチメートルと平成18年豪雪を上回りました。最大積雪深も110センチメートルに達し、18年に匹敵する状況となっております。真冬日も既に37日を数え、除雪車の一齐出勤回数が増えたことに伴い、除雪経費も増加しています。また、2月24日現在の市内の雪害状況は、屋根の雪下ろし中の転落などによる死者が2人、負傷者17人、住宅等の一部損壊が4件、農業用パイプハウス等の倒壊6棟となっております。

市では、年明けから消防本部で毎週土曜日に「雪下ろし講習会」を開催しているほか、市広報やホームページ、報道機関を通じて除雪支援態勢を周知するとともに、緊急情報メールやツイッターで雪による事故防止を呼び掛けています。しかし、更なる降雪や気温の上昇に伴う融雪による被害が予想されたことから、2月22日に「災害警戒対策室」を設置し、雪害防止に向け、継続して安全対策に努めています。

おおだて子育てねっと

市の各部署で所管している子育てに関する情報を集約した、「子育て総合窓口」として構築したポータルサイト「おおだて子育てねっと」を2月7日からスタートさせ、2月21日現在でのアクセス数は、6016件となっております。出産、育児、保育、予防接種等に関する行政サービス、施設情報などを素早く見つけられるよう工夫し、子育て相談、保育料の試算機能、子育てスクールや民間の幼稚園・保育所の情報など、子育て世代必見のサイトとなるよう努力しましたので、ぜひご利用ください。



http://odate-city.jp/kosodate/

市議会3月定例会が2月26日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から、主なものの要旨をお知らせします。

平成25年度産米の生産数量目標

平成25年度産米の需要量については、24年度産米に比べ278トン多い2万2466トンが提示されました。これを受けて「大館市農業再生協議会」では、全農家に対する配分率を昨年より1.1ポイント多い59.6パーセントに決定、2月13日にJA等生産調整方針作成者へ通知し、その後、JA等から各農家へ通知しています。

市町村への配分率の格差については、25年度までの3年間で2分の1にすることとされ、今回、25年度産米の配分で措置がされたものの、依然として大きな格差が残ることから、県に対して引き続き格差解消を強く要望します。

経営所得安定対策への取り組み

国の「農業者戸別所得補償制度」は、平成25年度から「経営所得安定対策」と名称を変え実施されます。

内容は24年度と同様で、市では、各種の「直接支払交付金」を有効活用するとともに、国の「産地資金」や県の「政策転換対応型農業支援事業」を活用して重点戦略作物であるアスパラガス、枝豆、山の芋など9品目を中心に助成します。

また、市独自の「飼料用米等作付支援事業」についても、昨年度と同様10ア

釈迦内工業団地整備事業

ル当たり1万円を基準に助成し、水田の有効活用を図ります。



釈迦内地区の市有地に整備を計画している釈迦内工業団地については、平成25年度の5ヘクタール造成に向け、昨年12月21日、市土地開発公社に計画実施に必要な調査を依頼し、1月18日から3月25日までの期間で、開発行為事前協議書類等の作成が進められています。

また、造成計画について、1月から地元住民説明会を開催しているほか、住民を対象とした誘致予定企業の類似施設の見学会を開催して、今後も事業の実施に当たっては、住民の理解を得ながら進めたいと考えています。

地域活性化対策

平成22年度に創設した「地域応援プラン」により、今年度は44団体が地域活動に、4団体が新たな地域づくり計画に取り組んでいます。

その中で、今年度は釈迦内地区まちづくり協議会の「釈迦内サンフラワープロジェクト」活動が地域づくり総務大